

---

# 浪速の激烈恋愛悲話

零居 椎名

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

浪速の激烈恋愛悲話

### 【Nコード】

N7757N

### 【作者名】

零居 椎名

### 【あらすじ】

合コンに行った後、ふと過去の恋愛を思い出した主人公、久坂誠

一（21）の過去の恋愛のお話。

(前書き)

特に会社でときめく出会いがないので。

ある日、友達に誘われて初めて合コンに行ってみた。

でも結局、いい人とは出会えなかったけど。

久しぶりにあの日のことを思い出した。

別に、何してほしいなんて思ってないけれど。

ただ何となく話してみたかったり、触れ合ってみたかったり。とにかく今の状態から開放されて、普通に冗談言って笑い会えるような、そんな関係を望んでいたのかもしれない。中3の夏。

皆が皆、片思いをしていた。

もちろん俺も。

すべてはあの日、一瞬にして、崩れていった。

中学最後の、宿泊レクの日

「久坂くんて好きな人おらへんの?」

それは夕食後の肝試しの順番待ちのときに、いきなり言われた一言。

「え、なんやねん、いきなり」

最初は、俺とペアで肝試しに行くことになった宮下という女子との会話から始まった。

「ええやん、ちょっと聞いてみただけやて。あ、別に偵察やあらへ

んでえ。んで、おるん？それともおらへんの？」

「お、おるよ。・・・一応」

俺は全然言う気も無かったのにもかかわらず、宮下が顔をおもいきり接近させてくるから、吃驚して。勢いでつい言ってしまった。とたんに自分の顔が熱くなっているのがわかった。

「え！？久坂、好きな人おるんか！????？」

まったく大きい声でしゃべってたわけでもないのに近くにいた友達の武が、俺たちの会話を聞き取っていたのか。話に割り込んできたのだ。

「なんでお前がはいってくんねん！」

「ええやん、わいも混ぜてえな」

「そや、大勢のほつが楽しいで？恋話は！」

「せやけど・・・！」

「ほんならつちらも混ぜてくれへん??」

今度は固まって喋っていた女子のグループが数名はいつてきた。

「なんやなんや、恋話かいな？」

「誰の？」

「久坂やって」

「な、違っ!」

「久坂くん?!」

「てか、久坂くんて好きな人おつたんや!」

「誰々??」

俺が返事する暇も与えないように、俺の除いて総勢8名の男女が勝手に盛り上がり始めた。

しかも、俺の好きな人の話で。

「ちょ、宮下!どうしてくれるん!??」

「ええやんええやん、中学最後の思い出やあ」

「せやで久坂、ぶつちやけたらええやん!」

「ほ、ほなら、おまんらの好きな奴も言ってみいや!

言ったら俺のも言ったるわ!」

「ええの?ほんまに言っで……?」

「……うち、うち、竹谷がすきやねん」

高城(女) 竹谷(男)

「おれ、さ……佐藤美弥ちゃん」

武（男） 佐藤（女）

なんと武がすきなのはその場に居る女子の中にいたのだ

「あたしは、……ご、ごめん。松本くんやねん」

佐藤（女） 松本（男）武、破れたり

「ま、まじかよー！」

「武さんねーん」

「きえは？」

「うちは あら の、に みゃクンが……！」

畑本（女） 手の届かない人

「私は久坂くん！」

斉藤（女） 久坂（俺だ！）

「え！？俺！」

「いやや、告白してもうたわ……！」

「あたしは……、武くん……なの」

桜井（女） 武（男）

「……あたしも言っちゃった。」

「ほ、ほんなら後は久坂と宮下さんだけやで！？」

「えー！宮下さんだれ？？」

「えつと……な。」

「あ、言わずらいのー？？じゃあ久坂！言え！」

「お、俺か？」

「お前や！」

「俺は……」

俺がすきなのは

「宮下……です」

久坂（俺だっつもの！） 宮下（女）

「え？」



「宮下……!」

「宮下は?!」

「だ。だれなん？」

「……武くん」

宮下（女） 武（男）

「んな……!」

俺は一瞬にして振られた。ていうか。

「全員片思い……」

その後も誰一人、この恋は叶うことなく。  
俺たちは卒業してバラバラになってしまった。

ひと夏の悲しい出来事。

結構な猛暑だったけど、あの時は一瞬にして暑さが引けてしまった。

でも、宮下と2回以上会話が続いたことが。

俺はうれしかった。

END

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7757n/>

---

浪速の激烈恋愛悲話

2010年10月10日12時07分発行